

平成20年4月23日
横浜市立旭中学校
校長 平井 隆

麻疹（はしか）感染について

新学期が始まって間もなく1ヶ月が過ぎようとしています。子どもたちも新しい学年、新しいクラスに慣れつつありますが、徐々に疲れも出てきています。体力が落ちて来ますといろいろな疾病に感染しやすくなりますので、睡眠を十分に、そして食生活をバランスよく摂るように心がけてください。

さて、市内の中学校で麻疹感染で休校になっているところがあるようです。麻疹は非常に感染力が強く、かかっている人と同じ部屋に20分間一緒にいるだけで、麻疹に対して免疫を持っていない人は、10～12日ほどすると90%以上の人が発症するそうです。また、子どもや成人の死亡原因は麻疹脳炎が多いと言われています。麻疹が重症の病気である原因は免疫機能が低下した状態が数週間続くため、他の感染症に合併した場合、それが重症になる場合があります。結核が再燃する場合もあるようです。

2008年4月から5年間の時限措置で中学1年生（13歳になる年度）と高校3年生（18歳になる年度）に相当する年齢の者に対して定期予防接種として麻疹風疹混合ワクチンの接種が区の福祉保健センターで実施することになりました。どちらか片方かった人も混合ワクチンの摂取が可能となりました。中学1年生で接種できる人は、5年間の時限措置ですので、先延ばしにせずこの1年間のうちに忘れずに受けましょう。わからないことがありましたら下記に問い合わせください。

横浜市健康福祉局健康安全課 TEL 671-4190
旭区福祉保健センター TEL 954-6101

★麻疹の潜伏期間は10～12日（無症状の時期）です。初期症状は発熱、咳、鼻水、目が赤い、目やにが出るなどの症状が出てきますが、すぐに麻疹と診断できにくい状態です。その後口の中に白い斑点が出て、麻疹と診断され、首筋や顔に発疹がでて、1～2日ほどで全身に広がってきます。咳や鼻水のひどくなり、熱が39～40℃の高熱になり、かなり体力も消耗してきます。発疹は色素沈着を残して治ってきますが、治りかけた頃に併発するのが麻疹脳炎で、体調の変化には十分気をつけてください。麻疹は手洗い、うがい、マスクといった対処療法では予防ができません。また、発症してしまうと特効薬がありませんので、予防接種を受けておくことをおすすめします。

ご家庭でも子どもたちの日頃の様子に十分注意していただき、できるだけ早めに医療機関にかかるようお願いいたします。また、万が一かかった場合は学校までご連絡をお願いします。